



# 季刊誌

## IYEO News Avenue

### ～遥かなる海を越えて！～

特定非営利活動法人  
青少年異文化交流推進協会

2008 NEW YEAR  
VOL 10

## AYA2007 アメリカ高校交換留学生の今を緊急レポート



### Student Profile

名前:井口順子さん  
日本在籍校:県立浦添商業高等学校  
就学地:Adrian, OR  
就学校:Adrian High School

カリフォルニアの研修をいれたら、アメリカにきて3か月経ちました。学校は、もうすぐFirst Semesterが終わってしまうところです。友達も、最初のころに比べてすごく増えだし、すれ違うときとかに「Hey Junko!!!!What's up?」など、手を振ってくれたりしてくれます。

ここ1か月くらい前からは、友達から土日にどこか遊びに行こう！と誘われたりするようになったり、友達増えたなあ実感します。学校の授業は最近慣れのせいもあって、あまり困ることはなくなっただし、辞書にも前ほどは頼ることはなくなりました。いい先生は、テストのときなど、難しいところは消してくれたり、選択肢を少なくしてくれたりして、気にかけてくれます。

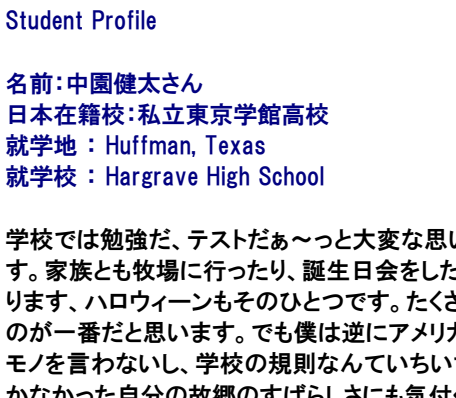

けども、プリントの穴埋めなどをしていると「Write it down」と言われるときがあるのですが、これはまだすごく困ります。書けと言われてもスペルがまだわからないので…。だけど困ってるのはそれくらいです。



宿題はホストファミリーに手伝ってもらったり、先生に手伝ってもらって…。

ホストファミリーとの生活はすごく充実してます。土日に一緒に料理を作ったり、買い物に行ったり、宿題一緒にやったり、一緒に映画のDVDをみたり。私のところは、ホストブラザーもシスターもいないので、遊園地に行ったりだとか、そういうことは一緒にしないけれど、でもそのぶん私のことを1番に考えてくれるので、すごく充実しています。これから来週はThanks givingそしてChristmas!!!! 来月で残り半年になります。思いっきり楽しみたいです!!!!


写真はOxnardでほかの国からの留学生と一緒に撮った写真と、9月にあった秋のHome coming partyの写真、この前学校の友達と一緒に遊びに行った時の写真です。



### Student Profile

名前:中国健太さん  
日本在籍校:私立東京学館高校  
就学地 : Huffman, Texas  
就学校 : Hargrave High School

学校では勉強だ、テストだあ〜っと大変な思いもしますが、他にFINE ARTS(特別授業)などで演技や歌の練習をしているときは本当に楽しいです。家族とも牧場に行ったり、誕生日会をしたり親睦を深めるのもすごく楽しいです。そして本場のアメリカでないと味わえない数々の楽しみもあります、ハロウィーンものひとつです。たくさんアメリカの文化をこうやって知るにはやっぱり留学をするつというように、その土地に溶け込むのが一番だと思います。でも僕は逆にアメリカの文化を知って、日本の文化も誇りに思ったっていうこともあります。今までは日本人はハッキリとモノを言わないし、学校の規則なんていちいちうるさいなあなんて、悪いところだけ見ていたんだけど、いざ外の世界に触れると、自分では気付かなかった自分の故郷のすばらしさにも気付くことができました。



そしてそれをアメリカ人に伝えてあげれるのも喜びのひとつです。ハッキリ言って留学は全然、楽しいことだけじゃないです。

楽しいものがあって、苦しいものはもつとあるって考えてもいいかもしれない。学校との友達関係、家の人との摩擦、言葉の壁、勉強の苦労もあり、日本の家族や友達に会えないつらさ。．．色々あると思います。

でもこの一年間の間に起こるこれらの苦労・苦痛は全て無駄にならないと思います。それは自分から出ていってしまうものは無く、得るものが多いからです。そして、もちろん自分が選んだ道だからということもありますが、アメリカで起こる全ての経験は日本ではできないこと、そのときにしかできないこと、それをやらず帰国したときの後悔を考えて、全て挑戦して、受けて立ってやろうと思います。そして日本に帰る時は誰もが僕を「見違えた」と言わせたいと思っています。



### Student Profile

名前:秋山陽さん  
日本在籍校 : 千葉県立千城台高校  
就学地 : Victorville, CA

私のところのホストファミリーは人とのつながり、特に家族を大切にしています。現在のホストファミリーは、ホストファザー、ホストマザー、ホストブラザーが4人とホストシスターが2人いますが、僕はホストファザー、マザーと一番年下のホストブラザーと一緒に暮らしています。ほかのホストブラザーとシスターは違う場所で仕事をしたり大学へ通ったりしているため家族全員が集まるということがほとんどありません。なので家族全員が集まる時はパーティーのようにいろいろな食事が出たりなど大変盛り上がりします。

また、教会などではよく人と会話をし、男性同士では血のつながっていない人でも「ブラザー」と呼びかけたりするのをよく聞きます。アメリカの人は、日本人が気にする「知らない人と会話をする抵抗」や「年齢の差」などが感じず、とても楽しく日々を送っているように見えます。日本にはない習慣ですがこの習慣はとてもすばらしいものだと思います。もちろん日本にもすばらしい習慣がありますが、こういったアメリカの習慣も見習ってはよいのではないかと思います。



する「知らない人と会話をする抵抗」や「年齢の差」などが感じず、とても楽しく日々を送っているように見えます。日本にはない習慣ですがこの習慣はとてもすばらしいものだと思います。もちろん日本にもすばらしい習慣がありますが、こういったアメリカの習慣も見習ってはよいのではないかと思います。



交換留学生としての使命を背負い、現在アメリカで奮闘中の彼らのレポートは、また入り次第お届けすることになります。

頑張れ AYA2007生！！





特定非営利活動法人  
青少年異文化交流推進協会

2008 NEW YEAR  
VOL 10

## IYEO大阪デスク スペシャル レポート オーストラリア NSW州政府教育省 ブラックスランド バディー プログラムフォト アルバム 1

当協会の大阪デスクと英語学習塾の藤川先生、木野瀬先生との合同企画により2007年3月25日から10日間の日程で、オーストラリアニューサウスウェールズ州ブラックスランド所在のブラックスランドハイスクール(州立の中学・高校)を舞台に、中高校生を対象としたバディープログラムが催行されました。このバディープログラムとは、オーストラリアNSW州政府教育省および管轄の受入校の監修のもと、日本とオーストラリア双方の青少年の異文化理解の促進および交流を主旨とするもので、現地受入校生徒宅にホームステイしながら、ホストブラザー/シスター(バディ)と一緒に登下校をし、午前中は日本人生徒のみの、会話を中心とした英語研修を現地ESL教師指導のもと行い、午後は現地校生徒との交流(バディの授業に参加したり、スポーツ交流)、或いは、野外総合学習活動を行うものです。藤川先生、木野瀬先生から大切な写真をご提供頂きました。参加者のみなさんや両先生のおかげを持ち、オーストラリアの子供達と素晴らしい交流が図れました。どうもありがとうございました。



到着初日のホストとバディー同席でのウェルカムパーティー



ホストと初対面と挨拶。お互いに緊張の瞬間です。



全校集会での歓迎式。受入校の校長先生からのご紹介



受入校の生徒さんも日本からのグループに興味深深でした。



勇気を出して、現地校の通常クラスをバディーと一緒に体験！



受入校の先生も親切丁寧に指導してくれました。



グループ専用の英語のクラス。ESLの先生がとても親切でした。



英語クラスに現地の生徒さんが参加し、助けてくれました。



休憩の時間もバディーが迎えに来てくれ、安心です。



先生たちもとても優しく親切でした。



現地の生徒さんたちと総合野外体験学習(ブルーマウンテン)



南半球の日差しは強いのでサングラスは必須です。





特定非営利活動法人  
青少年異文化交流推進協会

2008 NEW YEAR  
VOL 10

## IYEO大阪デスク スペシャル レポート オーストラリア NSW州政府教育省 ブラックスランド バディー プログラムフォト アルバム 2



売店でおやつを買うのも英語なので緊張しますがこれも勉強です。



ホストマザーが作ってくれたランチをバディーと一緒に食べます。



日本からのご引率の先生方と記念撮影。



ずっと一緒にいてくれた親切なバディーと一緒に”はい ちーず。”



バディーと一緒にスポーツアクティビティー(バレー)をしました。



お別れ会でみんな日本の出物を楽しみにしています。



日本からの出し物”習字”はかなりの人気でした。



みんないろいろな文字を書くのにトライしてました。



”空手の演舞”の出し物。伝統文化に興味深深。



オーストラリアからの出し物は楽しいロックバンド演奏でした。



帰国前、最後の学校正門前での記念撮影です。



親切にしてくれたみなさんありがとうございます！



Q. バディープログラムってどんな意味ですか？

A.「バディー(buddy)」とは、直接的には仲間・相棒を意味する言葉として、特にダイビングなどで使われる場合は「仲間・支えあい・助け合い」を意味します。

今回のバディープログラムでは、現地オーストラリアの学生と日本からの学生が互いにプログラム期間中、国境を越えた“仲間・相棒”として助け合い、双方の異文化理解の促進および交流を意図するものとしてこの言葉が使われています。

IYEO大阪デスク 畑 俊行





特定非営利活動法人  
青少年異文化交流推進協会

2008 NEW YEAR  
VOL 10

## AYA2006年生 帰国アンケート内容の紹介

＊受講科目で、難しかった科目は何ですか？

1位：U.S. History アメリカ史) 2位：English(英語) 3位：Biology(生物)

<その他>

Physical Science/保健体育 Psychology/心理学 Economic・/経済学 Government/政治学 Pre-calculus/微分積分学 Algebra/代数学 Photography/写真 Poetry/詩



＊受講科目で簡単だった科目は何ですか？

1位：P.E.(体育) 2位：Algebra(代数学) 3位：Art(美術)

<その他>

Food/食物 Typing/タイピング Year Book/卒業アルバム制作 Drawing/スケッチ Piano/ピアノ Choir/合唱 Band/吹奏楽 Dance/ダンス

＊持って行くと役立つ物は？(参考書、教科書、生活用品は？)

1位：辞書・電子辞書 2位：文法の参考書 3位：本・小説

<その他>

耳かき 消しゴム シャープペンシル ローション リップ Milk Tea Cup ヌードル “アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書“



＊交換留学生としての約1年間で、最も収穫だったと思えることは何ですか？

出会い(友達・ホストファミリー・他の国からの留学生 etc) 英語力が付いた 友達・友情 日本での自分の環境を見つめることができた。また、そこから考えることも沢山あった。

タフになった 精神的に強くなった・大きくなった 日本のことを改めて知る事ができた 沢山の事を経験していくうちに、大きく成長できた 自信が付いた

**昨年のAYA生の帰国後アンケートをみても、彼らの努力、苦勞の跡、そして何よりも大きな成長が感じられるような気がします。**

**今年のAYA生達も先輩AYA達のように、きっと奮闘しながらも、様々な事を体験し、感じ、多くの人々と出会い……  
そんな日々を送っていることでしょうね。**

### ご存知ですか？ 留学の歴史

### The History of study abroad



島国である日本では、古来から新知識、新技術は海を越えて大陸への留学によって持ち帰られたものです。

古代の日本は、当然、造船や操船の技術がまだ未発達で、留学はまさに命を賭けての一大事と言っても過言ではないでしょう。

奈良時代から平安時代の遣唐使、遣隋使の任務は、現代でいう留学生で、目的地にたどり着けない者、異国で学業を身につけたものの、帰国できなかった者も多く、この頃に、「留学生(るがくしょう)」という言葉が生まれたとのことです。



この時代の“留学生として有名なのが小野妹子や空海といった、歴史の教科書には必ず登場する人物です。しかし、鎌倉時代になると、元寇で大陸との関係が悪化し、留学が少し途絶えたそうです。それ以降の室町時代には日明貿易、戦国安土桃山時代には、天正遣欧使節、朱印船貿易と、主に貿易を介して、海外からの新しい情報を得ていたようです。しかしながら、江戸時代には鎖国を始めてしまったので、再び海外との関係が薄れ、ただこの時、唯一海外への窓口であった長崎(出島)への“国内留学”により、細々とではありましたが海外からの文化は日本国内に入っていたようです。江戸時代の後期には、輸入された学問や科学は“蘭学”として徐々に広まっていった……ということです。

明治時代には、近代化、欧米化を目指して富国強兵、殖産興業を掲げ、岩倉使節団の派遣では留学生が随行し、司法・行政・教育・文化・土木・建築の新技術をを学び、持ち帰ったそうです。また、海外から教授や技術者が招聘され、それらの人々により、海外の文化が普及されたそうです。それだけではなく明治時代以降は、海外の優れた制度の導入や、先進的な事例の調査が積極的に行われたとのことです。

また、この時、“国際的な人脈形成・国際的に通用する人材育成を目的として官費留学が制度化されたとのことです。(ある程度の財力を持つ人々は私費留学を選択して留学する人々もいたそうです。)

### ● お知らせ ●

### IYEO 新理事長就任のご挨拶



特定非営利活動法人

青少年異文化交流推進協会

2007-2009 理事長 浜砂 順一郎

私の初めて海外渡航は自分のコミュニケーション力に不安を抱きながらの孤独なスタートであった事を今でも鮮明に記憶しております。

あまりにも準備不足な外国語の知識、はっきりとできない意思表示、そしていろいろな日本から持ち込んだ甘えた考え、これらが原因で海外ではうまくいかないことも多く、時には涙し、情けなさを感じ、弱音を言いながら日本に電話する日々が続きました。

幼き頃より異文化に興味を持っていた私は「この好奇心さえあれば海外生活の全てはきつとうまくいく！何とかなる」と自信满满での出発でしたが、その自信は到着後、瞬間に崩れ、異文化の中で生活する事の現実や自分の甘さを身に沁みて感じさせられました。

時間の経過とともに海外の人々から力添え頂いている自分、完全ではないけれども海外のライフスタイルにも慣れ、地に足を付け生活している自分、失いかけていた自信、異文化への熱き好奇心が再び沸き始めている自分、そして日本から持ち込んだ甘い考えが少なくなり、異文化の環境に適応しつつある自分に“気づく機会“がありました。

先述は過去の私の海外経験におけるほんの小さな物語、その時の心を描写したのですが、きっとこれら良きも悪きも海外で経験せざるを得ない心の移り変わりは、きっと将来、皆さんにとっても国際社会で活躍するために通るべくしてある大切な“最初のステップ(過程)”となるものであると考えます。

この道を歩んできた人々がその経験を次に伝承してゆき、“異文化における気づきの場面”を語ることこそが、真の異文化理解、しいては国際平和の礎に繋がる大切なこと、国際社会、地域社会への貢献と使命であると考えます。

青少年異文化交流推進協会は、そんな想いをした仲間達と一緒にスタートした団体です。現在は日本国内外の多くの方々からの賛同と協力を得て、現在に至っております。

異文化と向き合いながら孤軍奮闘している「皆さんの後姿」を自分自身の過去を振り返りながら、暖かく応援見てゆくことが我々にとっての最高の喜びと使命です。